

日曜教室での過去問対策とその必要性

塾長 上谷 恭範

小6、中3の日曜教室が10月6日から始まり、入試直前の1月26日までの毎週日曜日に各々の志望校の過去問を解き、対策を練っている。なぜ過去問対策が必須なのか。それは国立であれ都立、私立のどの中学高校でも、毎年の入試問題の形式と内容が類似しているからである。ならば、志望校の出題傾向を知り、今後の対策をたてるのが得策であろう。つまり、知識は無限であるから、出題傾向に合った問題に集中した知識を理解した方が、得点つまり合格点を取れる近道だからである。

では、具体的に算数と社会の出題形式と内容について5校を取り上げて実証してみよう。

一 お茶の水女子大学附属中学

〈算数〉

(1) 形式 試験時間30分と短く、時間不足感あり。解き順を示す問題が2〜3問ある。

(2) 内容 作図問題が毎年出題、平面図形の問題が3割と多い。旅人算と比の応用問題も多い。

〈社会〉

(1) 形式 全分野から均等出題、表、グラフ等の資料の読み取りに注目。

(2) 内容 世界の地理 歴史の年代順、日本の国際法下の民主政治 世界的なニュース 国際会議等の時事問題が出題

二 駒場東邦中

〈算数〉

(1) 形式 試験時間60分にしても短い、つまり解くのに時間がかかり、かつ「答えの出し方」をかかせるので時間不足は否めない。

(2) 内容 近年、計算問題はない。図形と数の性質の問題が大半。平面、立体図形の組み合わせ、移動、変化その中で面積比相似合同を発見していく複合複雑な問題、数列や規則性、場合の数など難問が多い。

〈社会〉

(1) 形式 大問一〜二問 記述問題2〜3問と多い。

(2) 内容 問題文をよく読み、説明文、表やグラフ等の資料を読み取り、記述させる問題が多い。時事的なテーマについて問われている。読解力が必要。

三 芝中

〈算数〉

(1) 形式 大問9〜10題、総小問15問、式や考え方は不要、答えのみ、試験時間50分

(2) 内容 複雑な分数計算2問、規則性の発見、場合の数、割合と比、図形の相似・面積比の応用、速さの旅人算は毎年出題

〈社会〉

(1) 形式 大問4題、小問30〜40問でかなり多い。記述問題と説明文をよく読んでの論述問題があり作文力が必要、とにかく書く力が必須。

(2) 内容 政治、時事問題の比重が高い。最後の問題で、筆者の考え方を受験生はどう考えるか120字から140字以内で答える問題では、語句が限定されているのでヒントになる。読む力が必要。

四 法政大学中学

〈算数〉

(1) 形式 平易な計算問題が3問 一行問題8問で相当点が取れる 試験時間50分で充分

(2) 内容 計算問題 一行問題で点をかせげる。相似・面積比の問題、立体図形、特殊算も幅広く出題され素直な問題が多い

〈社会〉

(1) 形式 解答形式は、大半が一問一答の形式で、文章記述もしくは適語記入が多い。

(2) 内容 国土と自然 農林水産業の分野多い。時事問題は毎年出題。知識のみでなく受験生の考え方を記述させている。

五 山脇学園中

〈算数〉

(1) 形式 平易な計算問題2問と一行問題6問全正解で50点は取れる。試験時間は50分で充分

(2) 内容 損益計算、食塩水等の割合、図形の面積相似、重なりの問題、容積の変化、旅人算とグラフ等々基本的問題が多い

〈社会〉

(1) 形式 解答形式で1〜2行の文章記述、漢字で書かせる問題が多い。

(2) 内容 地形図の読み取り、世界地理も出題、全て基本問題であるが、正解で漢字で書ける力が必要。日本国憲法の重要条文を暗記しておくこと。時事問題をあつかった小問がところどころに出てくる。国際関係、環境問題も出題されている。

以上5校の過去問を分析してお分かりのように、算数では問題形式として(1) 試験時間が足りない学校、(2) 式や考え方を書かせ学校、内容では(1) 計算問題がない学校、(2) 計算問題が複雑で難問の学校 (3) 計算と一行問題が50点取れる学校 (4) 難問で考える時間が不足で、時間不足の学校 (5) 毎年出題される問題例えば速さの旅人算、作図の問題のある学校等を理解していればその分野に多量の問題をかけ練習をしていかなければならないのは当然の帰結である。過去問の分析はそれ程必要なのである。

小6受験生 中3受験生 対象 修明塾の日曜教室

修明学園の毎年恒例、小6・中3受験生対象の「日曜教室」が始まっています。志望校に向けた過去問の傾向と対策演習に特化した、「テスト形式+解説」の授業指導で行う「短期間で志望校対策のノウハウがわかる」特訓講座です。外部生の参加申込も多くなっており、期間途中からも受講可能です！各教室にお問合せください。

10/6▶1/26
(全16回)
計64時間

11月の予定

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12月の予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 10月6日(日) ~ 1月26日(日) 日曜教室 開講中
- 11月2日(土) 数学検定(準会場実施 第2回)
- 11月9日(土) 漢字検定(準会場実施 第2回)
- 11月中旬~下旬 中学生対象 期末テスト対策勉強会
- 12月23日(月・祝) クリスマス会(本部浅草橋)
- 12月25日(水) 各教室の授業休講(冬期講習準備日のため)
- 12月26~1月7日 冬期講習(計10日間)

過去問演習における入試現代文への取り組み方

上谷 修一郎

小学6年生、中学3年生共通

まず前置きとして言っておきたいことは小説文・論説文共に出題されている文章を問題の作成者がどのように受験生に解釈、理解されたかが重要であるということです。その解釈や理解の根拠となる場所が文章中には必ずあります。そこがどこなのかを考えて見つけ出すことが正しい解答への第一歩です。

小説文

小説の場合は多様な解釈が可能になることもありますが、何よりも問題文の誘導に乗った上で問題作成者はどのようなストーリーとしてこの小説を理解させたいのかを考えていく必要があります。論説文ほど読むのが難しくないので、この点を思い違ひして自分の個人的な完走に基づいて回答すると大概間違えます。基本的には記述・選択式共に登場人物の心情表現しか聞きませんので真珠表現を投影しているもの、例えば登場人物のセリフや動作、そしてその場の背景についての記述をよく見ながら問題作成者のストーリーではこのときこの登場人物はどのような気持ちだったのかを考えてみてください。

論説文

論説文は抽象的で硬い文章なので一見すると小説文より難しく感じますが全体の論理構造が理解できれば回答に対応する文章内容を発見するのは、心情表現から心情内容を推測しなければならぬ小説文よりも容易です。基本的には一般的に言われている見解と筆者独自の見解を対比し、前者を否定しながら後者を肯定するという構造になっているので文章中の単語が一般的な見解と筆者独自の見解のどちらに対応するかを考えてみるのがよいでしょう。自分の意見を書かせる問題の場合も筆者の見解をきちんと受け止める必要があります。全体の構成としては①筆者の見解の要約②それに賛成あるいは反対する上での具体例などの根拠③自分の見解という流れを取りますので、自分の見解だけを最初から最後まで延々と書くようなことはしないでください。

過去問演習を通じて自分の現在の学力の到達度がよく分かると思いますが。確かに読解力は一足飛びには向上しませんが、回答が合っているかどうかは一喜一憂するのではなく、たとえ合っていたとしても自分の回答が正しいプロセスを経ているかどうかを検討し、一年一年丁寧に問題を解いていくことがよいだろうと思います。まだ本番まで時間は十分にあります。皆様一人一人の御健闘を祈念します。

高校入試・過去問の活用法〈英語編〉

柴田 圭

英語は都立・私立と志望校別に過去問対応が必要な科目です。難易度や傾向は異なりますが、受験生にとって必須の「熟語・会話表現」「読解問題」「リスニング」に絞って、どのように活用すべきか簡単にまとめます。

志望校の過去問(入手できる複数年分すべて)に載っている熟語・会話表現を抽出し、意味を調べ、ノートに整理しましょう(教科書3年分も同様)。この知識が十分に蓄積してくと、読解問題や文法・表現の書き換え問題はスムーズに解くことが可能になります。また、読解問題は段落ごと、会話文は一問一答の流れで会話が進んでいくため、話題や場面の展開を意識することが必要で、キーワード・センテンスには、下線を引くなどチェックを入れて書き込む習慣を付けましょう。そのようにしておくことで、各設問を見て、問題を解くヒントに直結していると気付く場合が多いのです。リスニングについては、「5W1H」を意識的に聞きとるようにし、メモにまとめておくと、各設問に対応できるようになっています。

最後に、過去問演習には50分の9割、つまり45分程度で解き終わるように時間配分のトレーニングも必要です。残りの時間は問題の見直しに充てるようにできればベストです。短期で修得できる速読術は無いので、毎日、英語長文に目を通し、慣れておくようにしましょう。

高校入試・過去問の活用法〈社会編〉

柴田 圭

「都立入試の社会」は、出題傾向に合わせた**要点整理中心の学習**をすることがポイントです。そこで過去問から傾向を2つに大別すると、①基礎知識を問う問題、②資料・データ読み取り問題となり、選択肢・用語記入・記述解答の対応が要求されます。1問5点という高配点のため、平均点以上を取り、短期間で確実に得点力を上げるためには、次のことを家庭学習で実行して欲しいです。また、記述問題に関しては、資料・データの「比較・変化」を問う場合が多いので、「どのような違いがあるか」「どのように変わったか」という視点を持ち、自分の言葉で簡単に解答ができるようにしましょう。

①日本・世界の各地域の工業・農林水産業の特徴をノートに地図を書きながら整理する

②歴史年表の整理は、「政治史(幕府・制度・出来事・戦争など)」「国際関係史(外交・貿易など)」「文化史(人々の生活・宗教・文学芸術など)」の3領域ごとにまとめる

③公民分野は、憲法や政治制度・経済関連の用語に対して、「一問一答形式」で整理する

以上を心掛け、過去10年分の問題演習を繰り返し励むこと。そうすれば、きっと飛躍的な得点アップの実感を得られます。

中学入試・過去問の活用法〈理科編〉

脇田 良子

中学入試の理科は、「生物と環境」「物質と変化」「運動とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野からまんべんなく出題されています。

出題ないようとしては、基本的な知識を問う問題、実験、観察を通して考えさせる問題、さまざまな情報をもとに推量する問題などがあります。解答形式としては、選択式解答、用語記述、文章記述(理由説明、考え方、方法の説明)、作図、グラフ記入、計算問題等があります。近年は長文を読ませ、基礎的知識をもとにしながらも、正確な理解力、記述力を試そうとする出題が増えています。これは、問題文をよく読まずに答えを出そうとする子どもが増えているなか、各学校が入学後のことを考えての傾向だと思えます。

理科は他の教科に比べ試験時間は30分〜40分と短めです。出題数は大問が4〜5題、小問数は20問から35問、時間配分に注意しながら、志望校の過去問解いて見ましょう。出来なかった問題、解き方がわからなかった問題があれば、その日のうちに解説などを参照して、解くための考え方や道筋を確認し、しっかりと理解出来るまで学習しましょう。そして、しばらく時間を置いてから再び解いて見ましょう。過去問題を解きっぱなしにしないことが大切です。また、出来なかった問題、分野のまとめノートを作り、知識を整理し覚えることも大切です。志望校の出題傾向を知り、時間配分をしっかりと身に付ける、体に覚えさせることも合格の決めての一つです。後三か月たらずの月日を大切にしっかりと学習して下さい。